

オンラインフリーペーパー  
#おいでよ上田  
2020.7月号

#上田の  
夏と  
わたし

オンラインフリーペーパー  
#おいでよ上田  
2020.7月号



令和2年7月 おいでよ上田

寄稿してくださったのは7名の方。いずれも素敵な作  
品を用意してくださいます！  
記念すべき第1号オンラインペーパー「#おいで  
よ上田」楽しんでいただけたら幸いです。

初めてのことであったので不安もありました。ですが実際  
に始めてみると、これまで交流がなかった方も寄稿に手  
を上げてくださって、本当にやってよかったと感じていま  
す。

令和に入ってから2年目の夏、世の中は様々な困難に見舞わ  
れて、否が応でも時代の転換に迫られているような気持ち  
になります。  
おいでよ上田も「地元を軸にした交流のきっかけを作り  
たい」という思いで、これまで実際に人が集まるイベント  
やワークショップを中止してしまいました。ですが、新型コロナ  
ウイルスの影響で全てのイベントを中止。  
だけど「何もしない」というのは気に入らない。何とか  
してこれまでやってきたことと似たようなことができな  
いか……？と考えたとき、オンラインペーパーを発行するこ  
とを思いつきました。

オンラインペーパー「#おいでよ上田」  
発行にあたって



「おいでよ上田」で検索してね。  
LINEアカウントも収録！  
あの歌詞スワップも収録！  
上田わんぱう  
上田の夏の風物詩！



おいでよ上田LINEアカウント  
LINEアカウントも収録！

宣伝

寄稿いただいた方は五十音順・敬称略

- 発行にあたって
- おいでよ上田
- 上田の夏の風物詩
- ましなま
- 平沢リノリ
- Swiryama
- カワサト
- おいでよ美々原・前田3号

CONTENTS::

「上田の夏とわたし」

#おいでよ上田  
オンラインペーパー





# 「おれたちの花火だ！」

耳を劈く轟音  
目が眩むほどの光  
私は心の中で叫ぶ  
その場にいた者も皆

心の中で叫んでいたことだろう

ある年の、ある街の花火大会のこと

もぎのやんちゃん



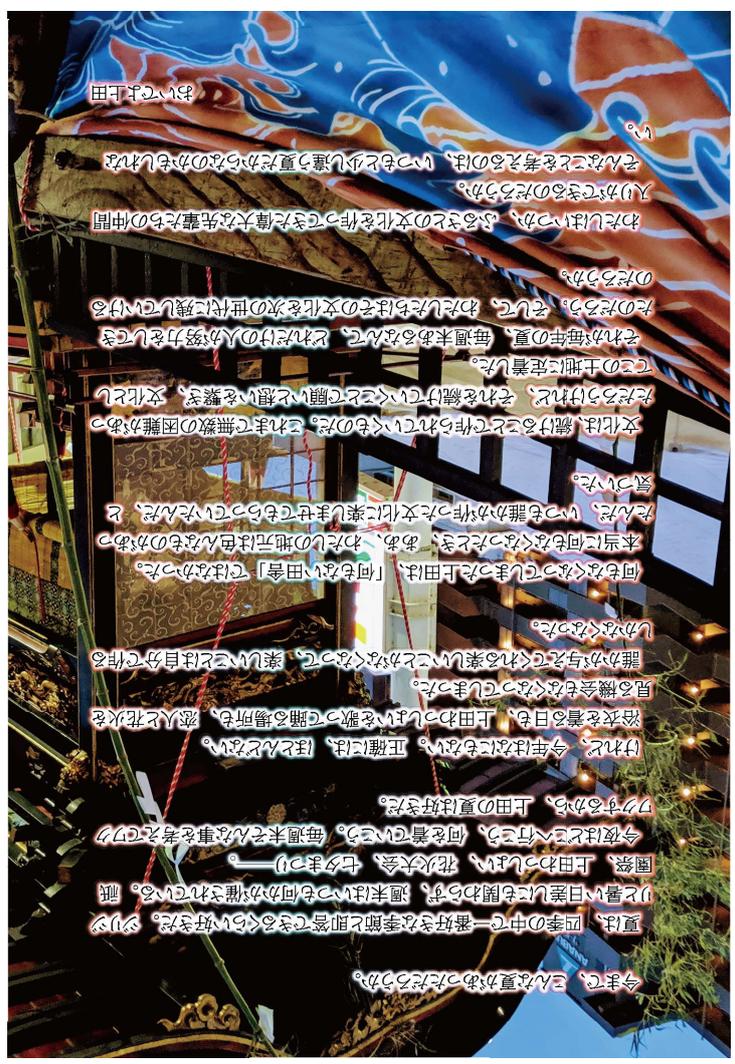
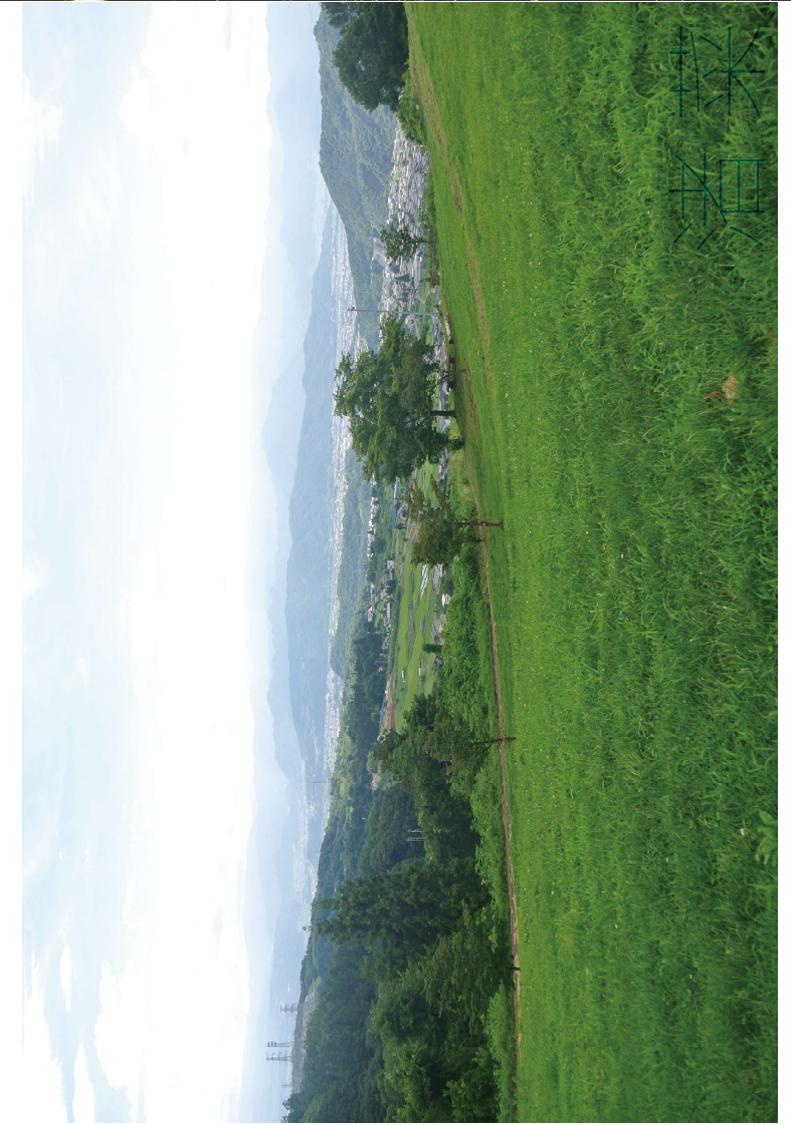
## 信州の民俗と私、 上田の夏は別所から始まる。

近年、別所を取り巻く環境は大きく変化した。台風19号の襲来により千曲川に架かる赤い鉄橋が崩落したことに加え、新型コロナウイルスの影響で観光業は大きな打撃を受けた。



私は毎年、7月になると別所温泉で執り行われる「岳の幟」と言う民俗行事の取材に行くのだが、今年は役員を限定し、神事のみを執行することとなった。永正元年より500年続く祭礼も今は辛抱の時である。

去年を振り返ると降り頻る小雨から撮影機材を守る事に必死であった事を思い出す(笑)  
濡れた森の匂い。しっとりとした温泉街を練り歩く幟行列はとても神秘的であった。来年は今年分まで盛り上がろう!(文・写:カツサト)



今まで、こんな夏があったのだろうか。  
夏は、四季の中で一番好きな季節と即答できるくらい好きだ。ソリやリと暑い日差しにも関わらず、週末はいつも何かが開催されている。祇園祭、上田わらしめい、花火大会、七夕まつり。  
今夜は七夕に行こう、何を着ていよう。毎週末そんな事を考えたりするのは、今年になにもない。正確には、ほとんどない。  
浴衣を着る日も、上田わらしめいを歌って踊る場所も、恋人と花火を見る機会もなくなってしまう。  
誰かかやえんぐさる楽しいことになって、楽しいことは自分で作ることができる。  
何かあった。  
何もなくなってしまう上田は、「何も無い田舎」ではなかった。  
本当に何もなくなつたとき、ああ、わたしの地元は色んなものがあるんだ。いつも誰かが作った文化に楽しみませてもらってたんだけ。  
文化は、続けることで作られていくものだ。これまで無数の困難があったろうけれど、それを乗り越えていくことで願いを繋ぎ、文化とこの土地に定着した。  
それが毎年の夏、毎週末あるなんて、どれだけ人が努力をしてくいたのだろうか。  
わたしがいつか、ふるさとの文化を作ってきた偉大な先輩たちの仲間入りができるのだろうか。  
そんなことを考えるのは、いつも少し憂鬱な夏だからなのかもしれない。  
おいては上田